

学校再編・小中一貫教育だより

温故創生

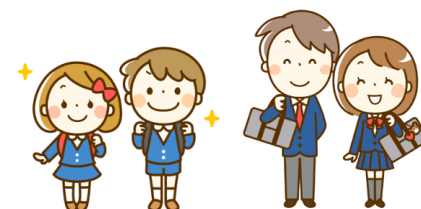
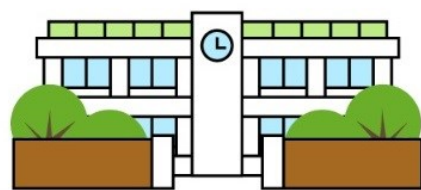
～ふるきをたずね、共に、新しきを生み出す～

令和元年6月
創刊号

行田市教育委員会教育総務課 発行

行田市教育委員会では、児童生徒数の減少による教育効果の低下など学校の課題解決とともに、子供たちにとって、より良い学びの環境を確保するため、平成31年3月に「行田市公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編成計画」を策定しました。

この計画では、「小中一貫教育を推進させる学校再編」「学校規模の適正化を進める学校再編」「特色ある学校を構築する学校再編」「地域に根差すまちづくりを進める学校再編」といった学校再編の4つの基本的な考え方を定め、実現していくための指針として「温故創生」という言葉で表現しました。このフレーズには、これまでの教育成果や地域の伝統・特色を生かし、保護者や地域の皆様とともに新しきを生み出すという意味が込められています。今月から学校再編成の進捗状況や小中一貫教育などの教育制度をお知らせするため、随時「学校再編・小中一貫教育だより『温故創生』」を発行していきます。保護者の皆様、地域の皆様と共に学校の再編成を進めていきますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。



1 学校再編成の4つの基本的な考え方

子供たちの未来を託し、地域の特色を生かした学校再編プラン

◆小中一貫教育を推進させる学校再編

「一人一人のよさを伸ばす学校づくり」

◆学校規模の適正化を進める学校再編

「教育効果を高め、子供の未来を託す学校再編」

◆地域に根差すまちづくりを進める学校再編

「スポーツ・文化・防災拠点としての充実を目指すまちづくり」

◆特色ある学校を構築する学校再編

「地域のよさを生かした魅力ある学校」

2 具体的な各地域の再編成

学校再編成の4つの基本的な考え方のもとに、市内全域を4つのブロックに分けて再編成を進めていく計画となっています。

計画策定後5年間の計画

東部地域：太田西小と太田東小で再編成

南部地域：星宮小と中央小で再編成

北部地域：見沼中学校区義務教育学校（荒木小、須加小、北河原小、見沼中で再編成）、南河原小・南河原中による小中一貫型小・中学校（施設分離型）

計画策定後11年間以上の計画

東部地域：東部地域小中一貫型小・中学校

西部地域：西部地域小中一貫型小・中学校

南部地域：南部地域小中一貫型小・中学校

北部地域：北部地域義務教育学校

東部・西部・南部地域はそれぞれ中学校1校、小学校2校、北部地域は中学校1校、小学校1校



3 行田市公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編成計画の説明会を開催しました

5月から市内7会場において、再編成計画等に関する説明会を実施したところ、大勢の保護者や地域の皆様に参加していただきました。誠にありがとうございました。それぞれの会場での参加者は次のとおりです。

開催期日	会場	対象中学校区	参加人数
5月13日	埼玉中学校体育館	埼玉中	18人
5月14日	古代蓮会館創作室	太田中	48人
5月15日	桜ヶ丘公民館ホール	長野中	23人
5月18日	産業文化会館管理棟 2階2AB会議室	忍中	53人
5月27日		行田中	14人
5月28日	総合福祉会館「やすらぎの里」 第3研修室	見沼中 南河原中	129人
5月30日	持田公民館ホール	西中	33人



説明会の様子。パワーポイントを使用して、小中一貫教育や各地域における具体的な再編成について説明しました。

Q&A 参加者から出たご質問と教育委員会の回答

ここでは、それぞれの会場で出た主な質問と教育委員会の回答を紹介します。なお、詳細な内容については、市ホームページをご覧ください(右のQRコードをスマートフォンなどで読み取るとアクセスできます)。



なぜ、小中一貫教育を推進するのか？

小中一貫教育の目的の一つは、義務教育9年間を見直し、小学校高学年と中学進学時の学習面・生活面の円滑な接続を図ることにあります。これにより、中学校生活における不安・不適応の軽減や学習意欲の向上が見込まれ、学力を高めることにつながります。また、異学年交流を行うことにより、発達の段階に応じてリーダーシップやコミュニケーション能力、思いやりなど社会で生きていくための資質や人間性を磨いていけることから、推進するものです。



新たな学校で過ごす子供たちへのフォローの体制は万全か？

不安を感じることなく学校生活を送っていけるように、再編成の対象校同士で、事前に「合同の体験学習」等の交流事業を行うとともに、相談員を配置するなどして、子供たちに対してできる限りのフォローを行ってまいります。



小中一貫教育の具体的なイメージは？

それぞれの中学校区の小中学校で「目指す子供像」を共有し、9年間の連続性のある指導計画を立てていきます。児童生徒への指導方法として、小学校高学年からの一部教科担任制の導入や中学校の教員が小学校で授業を行う「乗り入れ授業」の実施など、より専門性の高い授業を行います。



どのような方法で新しい学校を開校する準備を行っていくのか？

学校運営協議会委員の他、保護者や地域団体の代表者等で組織する「地域協議会」を立ち上げ、「校名」や「スクールバスの運行」など様々な事項について協議を行っていただきながら、新たな学校の開校に向けて準備を進めてまいります。



計画にある通学区域の変更は決定事項か？

地区と通学区域を一致させることを検討しております。それぞれの学校の建替え時期に合わせて通学区域を変更する計画となっておりますが、今後「公立学校通学区域等審議委員会」や保護者や地域の皆様と協議を行いながら決定してまいります。



スクールバスの運行方法は？

再編成に伴い、小学生の通学距離が概ね2.5kmを超える地域はスクールバスを運行させます。なお、中学生は、原則徒歩または自転車での通学としますが、「あまりにも距離がある」「危険な箇所を通る」といった地域は、保護者や地域の皆様のご意見を聞きながら、導入について検討してまいります。